

中学校給食

平成27年春の

実施は厳しい

問 中学校給食検討委員会は、数回開催されてきたが、平行線の議論が続く進展がないように思われる。予定している平成27年春の実施は可能なのか。

答 本委員会は検討内容が多岐にわたり、多角的な観点からの検討が必要のため、さまざまな立場の委員から構成

され、熱心な議論が行われており、12月には最終報告をまとめる予定だ。

しかし、給食の実施方式については今なお検討中であり、方式決定後も実施設計のため

の予算計上や施設の設計、入札や議会の議決などの手続きにかなりの時間を要することが予想される。これらを考慮すると27年春の実施は厳しい状況だが、できるだけ早期に中学校給食の実施ができるよう取り組んでいく。

平成23年度の不登校

小中学校ともに減少

家庭と学校の連携強化

問 本市の不登校児童・生徒数の現状と不登校防止に向けての取り組みについて聞く。

答 平成23年度の不登校児童・生徒の状況は、中学校では308人で

また、ため池周辺で子どもを見かけた場合は、地域で連携し、学校や自治会へ情報提供することも確認した。

環境学習の場としても活用

水難事故防止に向け ため池の安全点検を実施

問 ため池は地域住民の生活に重要な役割を果たす反面、水難事故の危険もある。子どもたちをため池から遠ざけることが良い対策とは思わないが、昨年の事故後の安全点検の結果、どのような対応を行ったのか。また、親水空間や環境学習の場としての活用方針は。

答 本市では、水難事故を受けて市内107カ所あるため池の緊急点検を実施し、危険啓発の看板設置や啓発ポスターの掲示、フェンスの補修などを行った。



体験ほりかいになってるんどん

また、ため池周辺で子どもを見かけた場合は、地域で連携し、学校や自治会へ情報提供することも確認した。一方、環境学習などの場としては、ため池協議会と協力し、小学生の体験活動など、引き続きため池の多面的機能を活用した取り組みを積極的に展開していく。

生活保護

不正は許さず

適正な制度運用

問 生活保護の不正受給が社会的な問題となっており、より適正な制度運用に努める必要がある。本市の生活保護の現状について聞く。

答 不正受給は被保護者が就労収入や年金収入を申告せずに保護費を受給している場合が多い。平成23年度には119件が判明し、法に基づき全額返還を求めている。防止策としては、収入申告義務の周知を図るなど、収入状況調査の徹底に努めている。一方、21年以降の厳しい雇用経済情勢の影響で保護の相談や申請受理件数は急増しているが、保護が必要な人には漏れがないよう努めている。今後不正を許さず、必要な人には支援し、市民の信頼に応える適正な制度運用を図っていく。

どのように進めているのか

二見地域のまちづくり

地域と協働して推進

問 明石市都市計画マスタープランには二見地域のまちづくりの目標として、近隣商業地域の活性化や海辺の景観を生かしたレクリエーション機能の強化、歴史ある景観を生かした沿道整備などを掲げているが、どのように進めているのか。

答 都市計画マスタープランでは、豊かな地域資源を生かし、いつまでも住み続けたいと思える豊かで活力ある都市を目指しており、二見地域でも山陽電鉄東

二見駅周辺の整備や南二見人工島の特色ある都市づくり、道路ネットワークの強化と沿道の景観づくりなどを地域づくりの目標と定めている。これまでも東二見駅や駅周辺の道路整備に取り組んできたが、今後も目標の実現に向け、地域と協働して進めていきたい。



整備が進む東二見駅周辺

教育委員会委員

任命に同意

教育委員会委員(任期4年)として、公家裕氏(63歳・大蔵八幡町)と、田中陽三氏(64歳・魚住町)を任命することに同意しました。

公家氏は再任で、平成20年から同委員に就任されており、現在、教育委員会教育長を務められています。

田中氏は初めての就任で、高校教員を長年務められ、現在は環太平洋大学教育学部特任教授として活躍されています。

委員長に聞く

文教厚生

文教厚生常任委員会の担当する分野
教育や福祉、介護保険、また、子育て支援や児童の健全育成など市民の暮らしに関わる分野を審査します。



文教厚生常任委員長
いとう 圭 湊
在職4期。議長、副議長、議会運営委員長などを歴任。67歳。

明石の未来を担うこともたちのために

Q 今年度、重点的に取り組むべき事項は。

A 昨年度に引き続き、中学校給食の実施に向けた議論を行っています。

一方、今後の明石の教育について全体的、長期的な視点で話し合うために今年度当初に設置されたあかし教育会議(現在はあかし教育懇話会に名称変更)については、その設置方法や委員構成、進め方等について、教育委員会の独立性が損なわれる懸念があったことから、6月の委員会において疑義をただし、全会一致で改組を求める意見を出し、その結果、会議の在り方が抜本的に見直されることとなったところです。

当委員会としては、子どもたちにより良い教育環境が整えられるよう、また、生徒たちにとって本当に喜ばれる給食とは何なのかをしっかりと話し合っていく必要があると考えています。

Q 委員長としての決意や思いは。

A 本市のまちづくりの中心と位置付けられている「こども」を担当する委員会として、子育てや教育環境の整備など、明石の未来を担う子どもたちの心身ともに健やかな育ちのために、また、高齢者や障害者等の福祉の向上のために、議論を尽くし、住み続けたいと思えるまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

雇用政策

市内企業など

連携が重要

問 雇用政策として、国や県は補助メニューの提供や基盤整備を行い、市町村はそれらを活用

して地域ニーズに合った具体的な施策を展開する役割を担っている。本市の雇用政策に対する認識は。

答 雇用政策は直接雇用を創出する取り組みだけではなく、市内企業の活性化や企業と求職者をつなぐ事業なども

必要である。これらを総合的に展開することで、労働者が安心して働き、豊かな生活を営むことができることを考える。本市では、中小企業への融資や合同就職面接会の開催、市内企業の求人情報を提供するインターネットサイ